

下水道と環境と、それから私たち

守谷市立愛宕中学校 三年 上田 未麗

国際連合が呼びかける持続可能な開発目標

十七個の目標のうち第十四番目には、海の

豊かさを守ろうとある。この項目では、海

洋汚染を防ぐことや生態系を回復させること

海岸酸性化の影響を最小化させることなどが

目標とされている。その中で私は、海洋汚染

を防ぐという目標に目を付けた。海の水には

下水道から処理された水も含まれる。そのた

め、下水道から汚い水を流さないことが必要

であると考えたからだ。では、私たちには何

ができるだろうか。

皆さんは、家から出た汚水は下水処理場に

行けばすべてきれいになると思っっていないだ

ろうか。確かに今日の下水処理技術はかなり

高くなっ、てきているが、それには限度があり、

化学物質は消えることなく残っ、てしまっ、

れいな海を守るには、下水処理に頼っ、て汚れ

た水を流すのではなく、水を汚さない工夫、

汚れた水を流さない工夫が大切である。

実は、私たちが家庭でできることはたくさんある。例えば、油や米のとぎ汁を流さないこと。もし、それらをそのまま流してしまつたら、その水を魚がすめるほどきれいにするのに、油では約三万倍、米のとぎ汁では約二千倍もの水が必要になる。ほんの少し流しただけでも、それらは多大な影響を及ぼすことがわかる。被害を少しでも減らすために、油汚れは洗う前に拭きとること、油はかためた

り紙きれに吸わせたりして捨てること、米のとぎ汁は植木などにまくことができない。また排水口に水切り袋や目の細かいネットを張り、ゴミや髪の毛が流れるのを防ぐこと、トイレをこまめに掃除して強力な洗剤を使わないようにすることも大切である。そして、先ほど述べた下水処理では消せない化学物質として、リンやち、素が挙げられる。そのような物質を含まない無リン洗剤や植物成分でできた石けんを使うことも水を汚さない工夫につながるが

る。私たちの小さな取り組みが海洋汚染を防ぐ第一歩となるのだ。

また、下水処理場では、汚泥や水のリサイクルを通して環境問題についての取り組みが行われている。

下水を処理したあとに残る汚泥は脱水して焼却する。その過程で発生するメタンガスを使つて電気をつくつたり、脱水・焼却後にできた灰を肥料やセメント原料としてして再利用したりしている。汚泥の処理量を減らす

ことで、埋立処分場の延命化を図ることができると加えて、下水処理場できれいにした水を高度処理して、公園の池や噴水・洗車用の水として使う取り組みも行われている。さらに、国技館では、雨水を地下の貯水層にため、トイレ用水などに使っている。使える水の量には限りがあるため、無駄なく有効利用することが大切なのだろう。

環境問題の他にも私たちの身近に上下水道に関する問題がある。私は最近の水道水の味

が以前と異なっていると感じる。気になつて調べてみると、塩素の量が関係していることがわかつた。汚れた川からの水を水道水に使うと、消毒のための塩素を多く入れなくてはならない。また、水に混ぜた有機物と塩素が、化学反応によつて発癌性のあるトリハロメタンをつくるとの指摘もある。私たちが流した汚い水が、私たちの健康に影響を及ぼし、おいしい水の味さえも変えてしまっているのである。やはり、水を汚さない工夫、汚れた水を流さない工夫が大切である。とわかる。

ここまです下水道と環境問題について書き、改めて私たち人間の行動と環境との関係について考えさせられた。下水道と環境は密接に関わり合っている。すなわち、下水道の恩恵を受けている私たちも環境と深く関わり合っているはずだろう。現に東京湾の汚れの原因のおよそ七割が人間による生活排水といわれている。しかし、言い換えれば、私たちの行動次第できれいな海を取り戻すことができる。

ということではないだろうか。今この作文  
を読んだ皆さんにお願いです。私たちの生活  
に必要な大切な水を守り、下水処理での負担  
を減らし、きれいな海を保つために、できる  
ことから始めてみてください。一人一人の取  
り組みが大きな力になると思います。川や海  
に生きる生物のために、あなたが飲む水のた  
めに、あなたは何かできますか？